

# 令和6年度 学 校 評 価 報 告

草加市立花栗中学校

(令和7年1月27日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 自ら考え、心豊かに、たくましく生きる生徒 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ生徒（知）</li> <li>・豊かな心を育てる生徒（徳）</li> <li>・心身共に健康な生徒（体）</li> </ul>	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ○「学力を伸ばす生徒」を育成する授業改善 自ら考え、よりよく学びあう子どもの育成（授業力の向上） 主体的・対話的で深い学びの追究（草加っ子の学びを支える授業の5か条） ○「豊かな心を育てる生徒」を育成する活動の充実 学年・学級経営の充実（学級力の充実） 生徒会活動・学校行事の充実（主体的な取組をとおして子どもの心を育てる） ○「心身共に健康な生徒」を育成する生徒指導・特別支援教育の推進 生徒理解に基づく生徒指導・教育相談の充実 配慮を要する生徒への理解と支援 ○幼保小中を一貫した教育の研究と実践 小中学校間での情報共有と連携による効果的な指導の実践 子どもたちのための「草加市教育委員会委嘱研究」の推進 ○地域とともにある学校づくりの推進 学校運営協議会を中心としたコミュニティスクールの実施	<b>3 前年度の成果と課題</b> <b>成果</b> ○道徳教育の授業研究会やいのちの学習、メンタルヘルス推進校としての不登校対策に重点を置き、生徒の心を育てる教育に取り組めた。他者を思いやることや自分を大切にすることをあらゆる教育活動を通して、『生徒一人ひとりの良さや可能性が発揮される学校教育の推進』に教職員一丸となって取り組めた。 ○花栗中学校区の目指す子ども像「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる子ども」を目指し、全教育活動を通し、実践に努めた。また、小中連携として、兼務発令の教職員だけでなく、日頃から会議や相談業務などを中心に密な連携が図れた。 <b>課題</b> ●学力の更なる向上に向けた取り組みを推進するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業改善と指導力向上を目指すこと。 ●豊かな心の育成に向けた取り組みをあらためて確認し、メンタルヘルス推進校としての取組を活かして生徒1人ひとりに寄り添えるよう、組織的に対応すること。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営目標、方針</li> <li>・校務分掌組織</li> <li>・適所への適材配置</li> <li>・職員会議等の運営</li> <li>・予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員が学校教育目標、方針を理解し、連携・協働して運営に当たることが出来た。</li> <li>○各種会議等を効率的に運営し、提示適切に情報共有・共通理解を図ることが出来た。</li> <li>●校内分掌の決め方について、校長が適材配置を行う際に、充分聞き取りや面談をした上で進めていく。</li> </ul>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究組織、計画、実施</li> <li>・校内研修の推進</li> <li>・授業改善への取組</li> <li>・校外研修会への参加</li> <li>・人材育成</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な校内研修を通して、学びを得ることができた。好評であった。</li> <li>○教職員事故防止研修として、管理職研修、短時間の研修等を繰り返し実施し、教職員が当事者意識を持ち主体的に取り組めるよう、内容の充実を図った。</li> <li>○主体的・対話的で深い学びの実現に関わる授業改善と学力向上の基盤となるよりより学級経営について、計画的に実践した。</li> <li>●評価に関する研修を、更に充実させ、教科会等を通して、具体的な確認を行う必要がある。</li> <li>●ミドルリーダーの育成を図り、若手教員への支援・指導体制を確立し、管理職候補の育成を図る。</li> </ul>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健計画、安全計画</li> <li>・環境衛生の管理</li> <li>・健康観察、安全点検</li> <li>・緊急事態発生時の対応</li> <li>・危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学期毎の避難訓練について、地震、火災、不審者対応などの様々な危機管理を想定した訓練が実施できた。</li> <li>○PTAと連携し、学期毎の登下校安全指導を実施できた。</li> <li>●安全計画、危機管理マニュアルの見直しや周知徹底を図る必要がある。</li> </ul>

④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の管理、保護</li> <li>・施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人情報の管理、保護のため、校内取扱規程の見直し・周知をした。</li> <li>○校舎・施設等の安全点検と修繕箇所の修繕を迅速に対応した。</li> <li>○個人情報を取扱う場合の規定を遵守し、情報流出防止に努めた。</li> <li>○会計事務に関して、校長の決済を受け、監査等も適切に行った。</li> <li>●情報管理等の点検を定期的実施し、管理状況の把握と事故の未然防止に努める。</li> <li>●紙媒体の置き忘れ・デジタルデータの誤配布、誤送信を防ぐ仕組みを整える。</li> </ul>
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報の発信</li> <li>・学校公開の実施</li> <li>・学校運営協議会の推進</li> <li>・地域、校種間連携</li> <li>・PTA活動の活性化</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○HPや通信を通して、日々の教育活動を発信することができた。また、学校公開では保護者だけでなく、地域の大学との連携を図るなどの取組も新たに取り入れた。</li> <li>○年5回の学校運営協議会を開催できた。</li> <li>○新制服の検討にあたり、地域や小学校からの参画も取り入れながら諸会議を行うことができた。</li> <li>●教職員の負担感がない形で、今後も開かれた学校づくりのあり方を模索していく必要がある。</li> </ul>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子ども像の共有</li> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>・一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中乗り入れ授業や相談員、メンタルヘルス教員の兼務などを通して、連携を図ることができた。</li> <li>●各園、各校との活動参観や交流事業等を通して、さらなる連携を推進する。</li> </ul>

(様式2・中学校用②)

草加市立花栗中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>・教育計画の作成</li> <li>・教育活動の評価</li> <li>・目標、方針の周知</li> <li>・授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校経営方針を踏まえ、教育活動に取り組むことができた。</li> <li>○年間指導計画にそって、計画的に時数を確保することができた。</li> <li>○テスト前の学習会や、希望者への補充学習を行うことができた。</li> <li>○体育祭・合唱祭・修学旅行・自然教室を実施し、豊かな心を育成する大きな成果を得ることができた。</li> <li>○別室登校の生徒にも時間割で担当者を配置し、個に応じた学びの保障が実施できた。</li> <li>●校務分掌について見直しが必要である。分掌組織や人数について学校全体でバランスの取れた体制を構築する。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>・評価、評定の工夫</li> <li>・外部人材の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業における適切な評価・評定ができた。</li> <li>○主体的・対話的で深い学びの視点から、話し合い活動やICTを活用した授業が展開できた。</li> <li>○生徒用GIGA端末の活用を推進し、効率よく学習指導にあたることができた。</li> <li>●個別最適な学びの視点から、個々の生徒の習熟度に応じた指導方法を工夫していくとともに、より主体的・対話的な活動となるよう学習活動を工夫していく。</li> </ul>

③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の作成</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・道徳的実践力の育成</li> <li>・家庭、地域社会との連携</li> <li>・いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<p>○教材棚を作成し、共有できるようにした。また、研修を通して授業実践方法を広めることができた。</p> <p>●評価について負担感があるため、評価方法についてデータ化するなど工夫が必要である。</p>
④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・学級活動、学級経営</li> <li>・学校行事</li> <li>・生徒会活動</li> </ul>	A	<p>○4項目の評価が「達成＋達成しつつある」が80%以上となった。生徒会の自治的活動に取り組めた。</p> <p>●年間指導計画を見直して、委員会の数や職員の配置の工夫が必要である。</p>
⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・評価の工夫</li> <li>・地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<p>○体験的な学習・探求活動を取り入れて実施することができた。</p> <p>●学年の年間実施内容の見直しが必要である。</p>
⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対処</li> <li>・教育相談、生徒理解</li> <li>・いじめ防止対策</li> <li>・保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<p>○学年間及び管理職までの情報共有が迅速であった。</p> <p>●所属学年を超えて組織的な対応に課題を感じる先生が多かった。</p>
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的なキャリア教育</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・進路情報の収集・活用</li> <li>・職場体験活動</li> </ul>	A	<p>○組織的な進路指導の項目でA・Bの割合が90%に達した。2学年の上級学校体験において、保護者参加型が好評であった。</p> <p>●入試方法の変更に伴い、情報収集や周知を怠らない。学年の進路計画案の相談や情報交換を密にする。</p>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<p>○校内での交流が個に応じて実施できた。また、クラスの取組を周知する機会があり、自信につながった。</p> <p>●校外への発信や保護者の理解を得られるようにする必要がある。</p>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<p>○委員会を活用し、ブックトークや校内放送を通して、図書館の利用を推進できた。</p> <p>●図書館利用者の促進への工夫が必要である。</p>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<p>○学習端末を活用した授業が増えた。校支援を活用した成績処理が順調に実施されている。</p> <p>●学習端末活用のルールの徹底が必要である。校支援の入力について編集者が固定されており作業ができないことがある。</p>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○人権作文、標語の取組が充実していた。</p> <p>●決められた取組以外に、学校独自で行っている人権教育の充実が求められる。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	1 心の教育の充実がなされた	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的活動の充実</li> <li>指導方法の工夫</li> <li>家庭・地域社会との連携</li> </ul>	A	<p>○相談室や学習室、保健室など生徒の心の支えとなる場所がある。</p> <p>○教科横断的に指導方法を研究し、生徒が主体的に考え、表現できるように体験的な学習を取り入れた。</p> <p>●家庭との連携</p>
	2 課題を見つけさせ解決へ導く指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動等の充実</li> <li>学級応援団との連携</li> <li>施設設備の管理と有効活用</li> </ul>	B	<p>○草加っ子の学びを支える5ヶ条に沿った授業を実施した。</p> <p>○校内研修を通して県学調の帳票を分析したり、QUテストや面談等を通して、生徒理解に努めることで、個に応じた指導が出来た。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善について校内研修を実施し、管理職の授業参観等を通して指導力の向上を図った。</p> <p>●生徒が主体的に学びに向かう力を醸成するための、体験的な学習を取り入れる。</p>
	3 潤いのある生活環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標、方針の周知</li> <li>指導内容の充実</li> <li>評価の工夫</li> </ul>	A	<p>○学級アンケートを利用した生徒主体の活動を通して、リーダーの育成や自己肯定感・自己有用感の向上に繋がる指導が実践できた。</p> <p>○PTAと協力し、花壇の整備等を通して、潤いのある生活環境づくりを行い、また、美化委員が継続して管理をしている。</p> <p>○教室や廊下に生徒の成果物を掲示した。保健、食育、メンタルヘルスの視点から生徒向け、保護者向けの教材を掲示した。</p> <p>○安心安全な環境を目指し、積極的に破損箇所の確認と施設や設備のいっそうの充実。</p> <p>●敷地内(特に運動場や正門)の美化の継続。</p>

### 5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 生徒の評価は、AとBの全項目平均値は昨年度より2%減少し、89%であった。昨年度を上回ったのは5項目であった。
- 生徒がICT機器の使い方については、「ルールを理解し正しく使用する」と回答した割合は98%であった。一方で、保護者の回答で「家庭でICT機器の使用について子どもと話し合ったり約束したりする」と回答した保護者の割合は92%であった。
- 保護者の回答で、「学校は保護者の願いに応えている：79%」、「学校はお子さんに学力を付けている：76%」、「子どもが忘れずに配布物を渡している：65%」、「子どもの様子について担任と連絡をとっている：68%」といずれも昨年度より数値が低い結果となっており、家庭からの学校への期待や要望が大きいことがうかがえる。
- メンタルヘルス推進校として、小中連携(乗り入れ授業や教員の兼務、相談員の派遣等を含む)を推進し、全教育活動を通して積極的生徒指導を実践することができた。

### 6 次年度の改善策

- 学力の更なる向上に向けた取り組みを推進するとともに授業改善と指導力向上を目指す。
  - ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の継続
  - ・「全国学力学習状況調査」、「埼玉県学力学習状況調査」、「草加市学力学習状況調査」の分析を生かした校内研修や教科会を実施し、具体的な学力向上の手立てと効果のある取組及び実践研究の推進。
  - ・メンタルヘルス推進校の取組を推進し、よりよい学級を目指す指導と学級経営を実施。
  - ・家庭学習の充実を図るため、学校内でのよい取組の共有と家庭との連携。
  - ・全教科・領域における新学習指導要領における年間計画・全体計画等の計画的な実施。
  - ・GIGA端末、情報教材を活用した効果的な学習方法や家庭学習での活用研修。
- 豊かな心の育成に向けた取組を確認し、生徒1人ひとりに寄り添えるよう、組織的に対応する。
  - ・生徒理解を基盤とした自己肯定感、自己有用感を得られる生徒指導。
  - ・「考え・議論する道徳」を目指した道徳教育の実践。
  - ・学校行事の質の向上を図り、リーダーを育成するとともに、主体的に取り組む生徒を育成。
- 保護者、地域、諸機関と連携した生徒指導・教育相談を推進する。
  - ・メンタルヘルスリテラシーの視点から一人ひとりの想いや悩みに対応できる体制継続。
  - ・生徒・保護者との積極的なコミュニケーション、相談体制の確立、関係機関との連携。
  - ・新規不登校生徒を予防する早期発見、早期対応に努める。
- 中学校区の幼保小学校等との連携を推進し、0歳から15歳の教育活動に学びの継続性を持たせる。
  - ・15年間を通したカリキュラムの編成、実施。
  - ・中学校区の「目指す子ども像」の共有と接続のあるカリキュラムの実施。